気高地域振興プランに対する各委員からの意見への対応について

資料４-２

令和６年１０月２４日

|  |  |
| --- | --- |
| **（１）安心して暮らし続けることのできる地域の維持** | |
| 人口の減少・過疎化の進行、激甚化する災害や巧妙化する犯罪の増加などにより持続可能な地域運営が脅かされ、日常生活への影響が心配されています。  こうした社会情勢の変化や複雑かつ多様化する市民ニーズに対応するために行政、福祉関係、自治会と市民が共に助け合い、支え合いながら、課題を解決していく必要があります。  また、町内の４つの小学校の学校統合の進展により、次代を担う子どもたちの教育環境の充実を図ることが重要課題になっています。  地域に暮らす全ての人々が、安全に安心して暮らし続けられるまちづくりを目指します。 | |
| 前回の会議から加筆修正した個所  赤字で表示 | 前回の会議前に提案のあった意見と前回の会議での意見 |
| 〇小学校統合によるまちづくり  ・４校の学校統合による地域一体型の教育環境の充実  ・廃校舎の活用方法の検討、有効活用の支援  〇地域防災力の向上  ・リーダーの養成、地域の実情にあった防災対策の強化  ・災害時に備えた訓練の充実、各種機関との連携強化  〇地域交通の維持  ・気高循環バス、路線バス、ＪＲの利用促進  ・買い物支援対策のための地域交通の充実  〇自治会加入率の低下  ・加入率向上にむけた支援・促進  〇宝木駅・浜村駅の駅舎の有効活用  ・利活用の検討、賑わいづくりの促進  〇中学校の地域部活動移行への対応  ・地域の実情に合わせた受け皿づくりに向けた連携・支援  〇子育て環境の充実  ・地域食堂の充実や家庭・地域の子育て力の向上・支援 | 河根会長：・新設統合小学校周辺の新たなまちづくりの模索  ⇒　本庁各課と連携を図りながら周辺のまちづくりの検討を行います。  片山委員：学校統合への道筋が不明確、教育環境の具体が不明瞭な段階、見通しが持てる中で逆算して今これからを思考する必要がある。  ⇒　鳥取市教育委員会との連携を図り丁寧な情報提供等を行いながら学校統合に取り組みます。  渡辺副会長：・地域一体型、廃校舎の有効活用の支援  ⇒　意見を踏まえて加筆しました。  武田委員：各地域を大切に思う心と「気高」として一つにまとまる意識の醸成。  廃校舎を老朽化した地区公民館、生涯学習拠点として活用  ・小学校から中学校まで、地域で支えるスポーツ活動への協力・支援  ⇒　意見を踏まえて「地域一体型の教育環境」「廃校舎の有効活用の支援」と加筆しました。  委員不明：温泉街の再生、温泉の有効活用、空き店舗対策、貝殻節の保存伝承等、比較的人口が集積した地域（浜村）の活性化項目は多いが、周辺部の活性化策は具体性に乏しく、数も少ない。廃校舎等を活用した具体性のある活性案が必要では。  ⇒　意見を踏まえて「廃校舎の有効活用の支援」と追記しました。具体的な廃校舎の活用案について今後検討をします。また、浜村地区以外の活性化策については、各地域にある課題解決に向けて新たに（３）に「まちづくり協議会を核とした地域の魅力と活力の向上」に関する項目を追加しました。この他、地域防災力の向上、農業関連の項目、公共施設の利活用に関する項目を追加しています。  委員不明：学校新設に向けてこれから文化財発掘調査が行われ、何か出てくればまた延期してします。令和２年時点では、４校新設統合がよいとのことであったが、現時点でそれがよいのかまず２校ずつ先行統合して学校ができれば４校統合するという検討も必要では。  ⇒　このたび鳥取市教育委員会では、JR浜村駅南側の統合小学校の候補地を予定地として決定し、学校整備に向けた新たな動きがありました。先行統合については、各地域の実情を踏まえながら関係機関と検討を行います。  河根会長：…災害に強いまちづくりの構築に向けた個別避難行動計画の策定  ⇒　意見を踏まえて「地域防災力の向上」の項目を追加しました。行動計画は各地域の実情に合わせて策定に向けて支援を行います。  渡辺副会長：○災害の備えの充実  ・町内旅館・ホテルとの災害時協力協定の締結  ⇒　本庁各課と連携が必要な項目のため情報共有を行います。  武田委員：防災体制の強化・・・大規模地震発生時に河内川が氾濫した場合のシュミュレーション（避難経路、避難場所の確保）  ⇒　意見を踏まえて「（１）〇地域防災力の向上　・リーダーの養成、地域の実情にあった防災対策の強化　・災害時に備えた訓練の充実、各種機関との連携強化」と項目等を追記しました。  河根会長：…きめ細かい共助交通システムの構築と代替タクシー運行による地域活性化を図る。  ⇒　地域生活交通協議会と連携を図りよりよい地域交通の充実に取り組みます。  片山委員：ライドシェア、町内会での共助  ⇒　地域生活交通協議会と連携を図りよりよい地域交通の充実に取り組みます。  片山委員：利便性向上が鍵、列車バスを利用した観光ルートめぐり  ⇒　意見を踏まて（４）に「観光ルートの開発」と追記しました。また、観光的な視点での地域交通を関係機関と連携しながら検討します。  武田委員：移動販売、買い物代行業への支援  ⇒　地域生活交通協議会と連携を図りより買い物支援の充実に取り組みます。  武田委員：・地域内交通を代行する組織への支援  ⇒　地域生活交通協議会と連携を図りよりよい地域交通の充実に取り組みます。  武田委員：交通機関の利用促進（JR、路線バス、気高循環バス）  ⇒　意見を踏まえて「気高循環バス、路線バス、JRの利用促進」と追記しました。  渡辺副会長：自治会加入の促進  ⇒　意見を踏まえて追記しました。  八田委員：浜村駅、宝木駅の魅力創造と有効活用による賑わいづくりと交流促進  ⇒　意見を踏まえて「〇宝木駅・浜村駅の駅舎の有効活用  ・利活用の検討、賑わいづくりの促進」と追記しました。  片山委員：3町での合同協議が必要、スポーツクラブを中心に指導者人材バンクとの連携  ⇒　中学校のほか関係機関との連携をしながら受け皿づくりに向けて取り組みます。  地原委員：子育てに関する事業を追加するべき。  ⇒　意見を踏まえて「子育て環境の充実」の項目を追記しました。 |

|  |  |
| --- | --- |
| **（２）地域産業の活性化と雇用の確保** | |
| 田園が広がる気高地域にとって最大の地域産業である農業を取り巻く環境は、ますます厳しくなっており、耕作放棄地への対応、担い手の育成などが課題となっています。新たな取組として、創意工夫を凝らした特産品の開発、企業の農業参入も視野に入れた組織化による後継者の確保、新たな販売ルートの模索などが必要となっています。さらに漁業や観光を含めた地域産業の活性化を図り、雇用の確保をめざします。 | |
| 前回の会議から加筆修正した個所  赤字で表示 | 前回の会議前に提案のあった意見と前回の会議での意見 |
| 〇担い手の育成、農地の保全・維持  ・関係機関との連携強化、民間組織の活用・営農組織化の支援による担い手育成支援  ・転作作物の生産拡大の支援  〇地域資源を活用した新たな産業振興と特産品の開発  ・温泉を活用した新たな特産品づくり、新たな起業支援、情報発信の充実  ・地域資源の新たな掘り起こしと特産品づくり、ブランド化に向けた組織づくり  〇企業誘致の促進、働く場の確保  ・豊かな自然環境、有休施設の活用交通アクセスの向上など、地域の優位性を活かした企業誘致活動の促進  ・農業・漁業など地域産業の強化による雇用創出の促進  〇環境にやさしい資源の有効活用によるサスティナブルなまちづくり  ・地域の再生エネルギー源の有効活用、スマートエネルギータウン構想の推進 | 片山委員：市街化区域か市街化調整区域なのか（土地の確保）、山陰道の有効活用を視野に入れた誘致（交通網、流通面）  ⇒　意見を踏まえて「民間組織の活用・営農組織化の支援」と追記しました。  渡辺副会長：・転作作物の生産拡大支援  ⇒　意見を踏まえて記述を追加しました。  武田委員：取り組みを進める組織（担い手農家、農業生産法人、商工会、JA、県などの関係機関）設立  ⇒　意見を踏まえて「民間組織の活用・営農組織化の支援」と追記しました。  八田委員：・地域のさらなる産品の特産化と積極的なプロモーション  ・地域の名物料理づくりとその食材を使用したカフェの開店  ・開発セミナー開催による組織づくりの強化  ⇒　意見を踏まえて次のとおり追記しました。  「・温泉を活用した新たな特産品づくり、新たな起業支援、情報発信の充実」  八田委員：○地元企業とのコラボレーション  ・地元企業やスタートアップとのコラボレーションを促進し、新しいビジネスとサービスを創出  ⇒　意見を踏まえて「地域資源を活用した新たな産業振興」と追記しました。  河根会長：新たな商品作物の開発と商品化に向けた連携  ・農林水産物の定期的なマルシェの開催（観光センターの活用等）  ⇒　既存施設の利活用とあわせて関係機関と検討を行います。  片山委員：ふるさと納税の返礼品へ  ⇒　意見を踏まえて「新たな起業支援、情報発信の充実」と追記しました。  渡辺副会長：・地域資源の新たな掘り起こしとブランド化に向けた組織づくり  ・試作品づくりの支援と情報発信の工  　夫  ⇒　意見を踏まえて加筆修正しました。  武田委員：地域の農産物（しょうが）、地域で生産されている農産物（キュウリ、トマト、イチゴ、大豆、有機米）を使った商品（加工品、スイーツ）開発、地域をイメージさせる「貝がら」をモチーフとした商品（菓子、スイーツ）の開発と販路支援（道の駅等での販売）  ⇒　意見を踏まえて「新たな起業支援、情報発信の充実」と追記しました。  委員不明：温泉の残り湯や配管の熱を利用して、花や果物栽培ができれば特産品になるのではないか。  ⇒　意見を踏まえて次のとおり追記しました。  「・温泉を活用した新たな特産品づくり、新たな起業支援、情報発信の充実」  河根会長：・観光農林漁業の確立に向けた誘客システムの開発  ⇒　広域的な視点にたち新たな観光ルート、観光ツアーの開発をする中で検討を行います。  片山委員：・多角化経営の模索…環境資源を活用した雇用創出  ⇒　意見を踏まえて「豊かな自然環境、有休施設の活用交通アクセスの向上など、地域の優位性を活かした企業誘致活動の促進」と追記しました。  渡辺副会長：・新たな工業団地づくりと企業誘致  ⇒　意見を踏まえて「企業誘致の促進」の項目を追加しました。  木村委員：工場の誘致・・・ICに近いし広い土地がある。  ⇒　意見を踏まえて「企業誘致の促進」の項目を追加しました。  八田委員：○サスティナブルなまちづくり  ・リサイクルや再利用、エコ活動など環境にやさしい取り組みを促進し、新しいビジネスサービスを創出  ⇒　意見を踏まえて次のとおり追記しました。  「〇環境にやさしい資源の有効活用によるサスティナブルなまちづくり  ・地域の再生エネルギー源の有効活用、スマートエネルギータウン構想の推進」 |

|  |  |
| --- | --- |
| **（３）魅力ある地域づくり・人づくりの推進** | |
| 人口減少が進む中、地域の担い手不足、空き家の増加などが課題となっており、将来にわたる持続した地域づくりが必要となっています。そのためには、住民自ら主体的に取り組む「小さな拠点」の機能形成と地域運営組織の体制強化を図り、地域の資源や恵みを最大限に活かすことのできる地域づくりや人づくりの活動を推進します。 | |
| 前回の会議から加筆修正した個所  赤字で表示 | 前回の会議前に提案のあった意見と前回の会議での意見 |
| 〇地域の担い手育成  ・次代を担う若者との交流支援  ・人材バンク的な組織の検討  〇映画を通じた文化芸術の推進  ・映画によるまちづくりのための上映会の開催や機運醸成の支援  ・映画ロケの誘致支援  〇伝統芸能・伝統行事等の維持・継承  ・民謡貝殻節（唄・踊り）、国の指定文化財をはじめとする文化財の保存伝承活動の支援  ・民謡貝殻節レコード発売１００周年（２０３３年）に向けた機運醸成の支援  〇小さな拠点づくりの促進  ・浜村・逢坂地区での取組み・継続の支援、取組地域の拡大  〇まちづくり協議会を核とした地域の魅力と活力の向上  ・地域とまちづくり協議会との連携による活動の支援  〇公共施設の利活用  ・老朽化した社会教育施設など公共施設の今後のあり方の検討  ・公園等の既存施設の有効活用 | 片山委員：子ども達と地域が繋がる機会を設定…保幼小：読み聞かせ、行事などの合同体験等、中学生～：地域の大人と話す、活動する場面等  ⇒　意見を踏まえて「次代を担う若者との交流支援」と追記しました。  武田委員：小さな拠点づくり事業を活用した地域住民の活動支援と地域を支える人材育成  ⇒　意見を踏まえて「次代を担う若者との交流支援」と追記しました。  八田委員：映画ロケ誘致による映画文化の拡大  ⇒　意見を踏まえて「映画ロケ地の誘致支援」と追記しました。  河根会長：・浜村映画塾の活性化を図る…著名な俳優の招聘など、県内外の誘客イベントの検討  ⇒　節目の時期などをとらえて関係団体と検討を行います。  地原委員：映画や芸術等も大切で必要であるが、温泉街再生とセットになっていない。町外の人に良いなと思ってくれるインパクトがない。  ⇒　気高ならではの映画づくりに向けて関係団体と連携を図ります。  渡辺副会長：映画によるまちづくりのための定期的な上映会の開催や盛り上げの工夫  ⇒　意見を踏まえて加筆修正しました。  八田委員：○貝殻節踊り伝承館の創設  ・常設施設設置により、県内外へ貝殻節と踊りの魅力発信と集客  ⇒　既存の公共施設の利活用を今後検討します。  河根会長：・地域に埋もれている文化的資産の活用、情報発信を図る。（小泉八雲、田中古代子・千鳥、濱田台児など）  ⇒　意見を踏まえて「国の文化財をはじめとする文化財の保存伝承活動の支援」と加筆修正しました。  片山委員：貝殻節伝承者パスポート（仮称）の発行、2033年貝殻節踊りギネスに挑戦（町民も参加）  ⇒　レコード発売１００周年に向けて、今後、取り組みを進める中で具体的に検討します。  渡辺副会長：・レコード発売１００周年に向けたイベントの開催  ・保存伝承活動のための人材育成  ⇒　今後、活動の支援の中で人材育成を含めて取り組み、またイベントの開催など具体的な検討します。  武田委員：各地域の伝統文化（貝がら節、うぐい突き、菖蒲綱引き、とんど、百手の神事）の継承と担い手育成支援  ⇒　意見を踏まえて「（３）〇伝統芸能・伝統行事等の維持・継承　匡の指定文化財をはじめとする文化財の保存伝承活動の支援」と項目を追加しました。  八田委員：拠点づくりの魅力と成果の効果的な発信づくり  ⇒　今後も引き続き小さな拠点づくりの取り組みを進める中で情報発信の充実に努めます。  片山委員：・つながり方・発展性の模索…体験型催しの実施  ⇒　小さな拠点づくりの取り組みを進める中で体験型催しの実施など具体的な内容の充実に努めます。  武田委員：人との交流・・・布勢の清水を守る会、会下集落活性化、うぐい突きなど、地域が実施する交流人口増加に繋がる参加型事業への支援  ⇒　意見を踏まえて「（３）にまちづくり協議会を核とした地域の魅力と活力の向上」と追記しました。  八田委員：○公共スペースの充実  ・ヤサホーパークの利用促進、公園と広場を一層整備し、休憩やレクリエーションの場を提供  ・ベンチやテーブルも充実させ、居心地に良い空間づくり  ⇒　意見を踏まえて次のとおり追記しました。  「〇公共施設の利活用  ・老朽化した社会教育施設など公共施設の今後のあり方の検討  ・公園等の既存施設の有効活用」  八田委員：○コミュニティセンターのリニューアルと充実  ・町民が自由に集まるセンターを再整備し、交流できる環境を創出し、ワークショップ、セミナー等の開催  ・地域の人々のスキルアップ、ネットワーキングを支援  ⇒　意見を踏まえて次のとおり追記するとともに、ソフト面での充実に努めます。  「〇公共施設の利活用  ・老朽化した社会教育施設など公共施設の今後のあり方の検討  ・公園等の既存施設の有効活用」  八田委員：○文化活動拠点施設の創設  ・西いなば地域全体の芸術文化の創造と情報発信拠点づくり  ・西いなば3町の魅力ある祭りの合同開催、フードフェスティバル、アート展示会などの定期開催  ⇒　意見を踏まえて次のとおり追記しました。  「〇公共施設の利活用  ・老朽化した社会教育施設など公共施設の今後のあり方の検討  ・公園等の既存施設の有効活用」  河根会長：・老朽化しているコミュニティセンターと社会福祉施設の一体的な整備による福祉・文化施設の新規整備を図る。  ⇒　意見を踏まえて次のとおり追記しました。  「〇公共施設の利活用  ・老朽化した社会教育施設など公共施設の今後のあり方の検討  ・公園等の既存施設の有効活用」  片山委員：文化芸術に親しむ場、拠点の確保  ⇒　意見を踏まえて次のとおり追記しました。  「〇公共施設の利活用  ・老朽化した社会教育施設など公共施設の今後のあり方の検討  ・公園等の既存施設の有効活用」 |

|  |  |
| --- | --- |
| **（４）交流による活性化と移住定住の推進** | |
| 気高地域の賑わいを創出し地域活性化を図るためには、交流人口の拡大は重要な課題です。令和元年５月に全線開通した山陰道鳥取西道路と同年６月にオープンした道の駅「西いなば気楽里」を核にして新たな交流が生まれてきています。  地域資源である民謡貝殻節や温泉を利活用した交流を促進するとともに、移住定住の促進、空き家対策の強化のほか、情報発信力の向上をめざします。 | |
| 前回の会議から加筆修正した個所  赤字で表示 | 前回の会議前に提案のあった意見と前回の会議での意見 |
| 〇地域にある観光資源の利活用  ・鳥取西地域への世界ジオパークエリア拡大（平成26年）を活かした観光資源の開拓・観光体験ツアー・観光ルートの開発  ・山陰道鳥取西道路全線開通と「道の駅西いなば気楽里」を核とした３町連携による新たな交流の促進、情報発信の充実  ・温泉を活用した足湯や気軽に入れる温泉施設の検討など多様な活用法の検討  〇浜村温泉街の再生  ・地域との連携による魅力ある温泉街の再生  ・約１４０年の歴史ある浜村温泉をたどる街歩きルートの検討  ・明治の文豪小泉八雲が訪れたゆかりの地としての情報発信  〇定住促進、空き家・空き店舗対策  ・関係機関との連携強化による情報収集、情報発信  ・増加する空き家、空き店舗の解消に向けた組織の支援・強化、にぎわいの創出  〇情報発信力の向上  ・地域内の貴重な資源、行事などの情報をデジタル化し、SNS等で地域内外に情報発信 | 八田委員：○観光資源の開発  ・歴史的な建物や自然景観などを観光資源として整備し、町内外の人々の誘客や観光ツアーイベントを開催  ⇒　意見を踏まえて「観光体験ツアー・観光ルートの開発」と追記しました。  八田委員：「道の駅西いなば気楽里」の多目的利用化…道の駅公園化（植物、遊具、カフェなどの常設）  ⇒　道の駅の特色ある利活用に向けて関係機関と連携を図ります。  河根会長：・文化財や観光メニューの開発…亀井玆矩公墓地、因幡菖蒲綱引き、酒津トンドウなどの国指定史跡、無形民俗文化財、常松薬師如来坐像、延命庵の木喰仏、百手の神事などの県指定保護文化財や無形民俗文化財、山陰海岸ユネスコ世界ジオパークジオサイト活用  ⇒　意見を踏まえて「観光体験ツアー・観光ルートの開発」と追記しました。  片山委員：「道の駅気楽里」の活用観光情報発信基地の1つに、3町めぐりコース（半日コース、宿泊コース、欲張りコースなどの設定）  ⇒　意見を踏まえて「観光体験ツアー・観光ルートの開発」と追記しました。  渡辺副会長：・気高地域への世界ジオパークエリア拡大（平成26年）を生かした観光資源の開拓  ・町内の自然と人との交流を楽しむ  住民主導によるイベントの実施  ⇒　意見を踏まえて「観光体験ツアー・観光ルートの開発」と追記しました。  河根会長：ホームページなどの情報力の向上を図る必要がある。（観光センターホームページの活用等）、地域に埋もれている文化的資産の活用、情報発信を図る。（小泉八雲、田中古代子・千鳥、濱田台児など）  ⇒　意見を踏まえて「情報発信の充実」と追記しました。  片山委員：タウン情報誌（広域3町セット）作成、配布等工夫、年間スケジュール季刊ごと（情報の流れ方の把握・効果的な流し方）  ⇒　意見を踏まえて「情報発信の充実」と追記しました。  具体的な提案内容については、今後の取り組みの中で検討します。  木村委員：付加価値をつけた「体験の場」（体験）を主体とした観光コース）の拡充・・・ICに近いサバイバルドッグラン（中級上級）の創設、アクア体験（河内川と一緒に流れてみようコース）宿～常松（３時間）、砂像づくり体験（浜村中央海岸）、鳴き砂・漁火散策コース  ⇒　意見を踏まえて「観光体験ツアー・観光ルートの開発」と追記しました。具体的な提案内容については、今後の取り組みの中で検討します。  木村委員：ストーリー性のあるまちづくり・・・ワクワクドキドキターゲットは子ども世帯、観光客が夕方から歩いて楽しむことができる。春夏秋冬にわたって生計が立てられる。  ⇒　既存イベントの見直しも含めて魅力あるイベント・温泉街となるよう関係機関と検討を行います。  委員不明：１１月に行われるポタリングで、気高町の良さが出るようなルートの検討  ⇒　ジオパークの魅力発信と、気高ならではのルートの充実に向けて関係団体との連携に努めます。  地原委員：湯の量も豊富であり、一般開放できる温泉、旅館の活用、ゆうゆう健康館近くの温泉部落の湯の整備や新泉の湯の改修検討が必要  ⇒　意見を踏まえて「温泉を活用した足湯や気軽に入れる温泉施設の検討など多様な活用法の検討」と記述を加筆修正しました。  八田委員：温泉を利用したアミューズメント施設の設置  ⇒　意見を踏まえて「温泉を活用した足湯や気軽に入れる温泉施設の検討など多様な活用法の検討」と加筆しました。  片山委員：市民温水プール（3町の水泳授業をカバー）、保養施設の創設  ⇒　既存施設の有効活用や温泉資源の利活用について関係機関と連携しながら検討します。  渡辺副会長：地域外入浴希望者の受入対策  ⇒　既存施設の有効活用や温泉資源の利活用について関係機関と連携しながら検討します。  委員不明：誰でも気軽に入れる温泉施設が必要  ⇒　意見を踏まえて「温泉を活用した足湯や気軽に入れる温泉施設の検討など多様な活用法の検討」と加筆しました。  地原委員：湧き出る温泉があるのに温泉の有効利用となっていない。浜村温泉といいながら温泉街らしくない。一般客が気軽に入れる銭湯がない。鹿野の町並みのように歩いて楽しい景観のよさがない。  ⇒　意見を踏まえて「歴史を振り返る街歩きルートの検討」や「明治の文豪小泉八雲に関する情報発信」の記述を追加しました。  河根会長：…飲み歩きイベントなどの実施と交通手段の確保策を早急に確立する。  ⇒　既存イベントの見直しも含めて魅力あるイベント・温泉街となるよう関係機関と検討を行います。  片山委員：「西いなば3町めぐり」（仮称）の一環に組み込み、例えば「食と温泉を楽しむ」等のテーマで旬の特産物を提供・紹介する場に  ⇒　既存イベントの見直しも含めて魅力あるイベント・温泉街となるよう関係機関と検討を行います。  八田委員：商店街の店舗及び周辺施設を一層リノベーションし、魅力的な場所にし、人々が訪れたくなるような場所とする。  ⇒　意見を踏まえて「にぎわいの創出」と追記しました。既存の公共施設の今後のあり方の検討と合わせて具体的ににぎわい創出に向けて取り組みます。  木村委員：一日中温泉を楽しめる休憩室付きの温泉施設、温泉朱印（独創的な朱印）、他温泉とコラボ  ・浜村の旅館に泊まる必要性をつくる。他の温泉との差別化・・・宿泊客が喜ぶような仕組みづくり（小泉八雲階段話、空き家を使った肝試しハウス、夜旅館バスで送迎し、コース化魚見台から夕日の漁火を眺める。浜村温泉レトロ街）  ⇒　意見を踏まえて「温泉を活用した足湯や気軽に入れる温泉施設の検討など多様な活用法の検討」と加筆しました。また、既存イベントの見直しも含めて魅力あるイベント・温泉街となるよう関係機関と検討を行います。  武田委員：温泉街を散策するコース設定（小泉八雲ゆかりの場所の環境整備、湯けむり映画塾や映画ロケ地巡り）  ⇒　意見を踏まえて「明治の文豪小泉八雲が訪れたゆかりの地としての情報発信」「映画ロケの誘致支援」と追記しました。  片山委員：移住コストや県外からの定住者の声等、具体的な状況・情報を発信し、協力や支援できる拠点づくり（アンテナショップの活用）  ⇒　既存の公共施設の活用の検討、お試し住宅、空き家バンクとの連携のほか、本庁関係課と連携を図ります。  渡辺副会長：・関係機関との連携強化による情報収集、情報発信~~が重要~~（空き家バンクの活用）  ・増加する空き家、空き店舗の有効活用によるまちのにぎわい~~に繋げる~~創出（若者参画）  ⇒　意見を踏まえて統一的な記述となるよう一部修正をしました。  委員不明：気高町に住んでみたい、空き店舗で何かやってみたいと思った方に紹介できるような物件を検討してもらいたい。  ⇒　お試し住宅、空き家バンクとの連携のほか、本庁関係課と連携を図ります。  地原委員：単独の情報発信は必要だが、町外から来られる市民、県外者、観光客等から見た幅広な視点で考え議論するべき、3町の観光資源等の情報発信が必要  ⇒　広域的な視点での情報発信をする必要はあると考えています。各種会議等の機会をとらえて関係機関との連携に努めます。  八田委員：デジタル化の推進・まちの情報をデジタル化し、SNSやウエブサイトを活用した最新情報の提供  ⇒　意見を踏まえて「情報をデジタル化し」と加筆修正しました。  委員不明：気高町のホームページやインスタに年間行事を掲載し、町内外の人に情報発信を呼びかけてもらう。SNS上での協力隊のようなものを考えてみてはどうか。  ⇒　意見を踏まえて「地域内の貴重な資源、行事などの情報をデジタル化し、SNS等で地域内に情報発信」と加筆修正しました。 |

|  |
| --- |
| 共通意見 |
| ①昨年、５つのテーマの課題解決等について各委員で議論したが時間も無く、結局、中途半端な状態で終わっている。既に出された提言等も含め議論すべき。  ⇒　皆さんの意見を伺いながら今後の会議等で検討する必要があると考えます。  ②どのテーマについてもこれから１０年後を見据えた議論や提言が必要。特に、どの地域でも人口減少と高齢化対策は共通事項であり、数十年続くためどうしようもない。  人口減少が少なくなるような方策について、住民の意識改革、関係人口の拡大、気高町の特色あることを立体的に考えていくことが必要。  ⇒　各地域の課題解決に向けて支援を行います。  ③将来的にも浜村はコンパクトシティ－の中心となるため、周囲からの移住対策含め世帯数の増加となる。どんな町とするのか周辺の地域との連携も必要。併せて、これから起きていく人口減少、高齢化、若い世代が少なくなる、労働力不足等、社会背景や経済動向等を考えた議論が必要。  ⇒　皆さんの意見を伺いながら今後の会議等で検討する必要があると考えます。  ④小学校統合の正式な場所はまだ決まっていないが、恐らく現在要望中の駅裏に間違いないと思われます。４つの小学校が６～７年後には１つとなるが、この統合を契機としたまちづくり、ハードとソフトを含めた環境整備等を行政、地域住民、各諸団体、民間等と着実に実施していくことが必要。  ⇒　皆さんの意見を伺いながら今後の会議等で検討する必要があると考えます。  なお、逢坂小の浜小への部分統合、瑞穂小又は宝木小の部分統合の議論も併せて必要。基本的に地域が考えることであるが地域に投げておいても進まなく、結局は、全体の疲弊や損失、将来の子ども達のためにならない。  ⇒　鳥取市教育委員会のほか、関係機関と検討を行います。  また、子供の数、特に中学生の数が減っていくことは確実で、気高、鹿野、青谷のそれぞれの中学校と言っておられない時代を迎えるのは確実である。  このため、学校に限ったことではないが、あらゆる面で３町の元気高郡で検討すべき  ⇒　　皆さんの意見を伺いながら今後の会議等で検討する必要があると考えます。  ⑤地域の実情等もあり３町の行政単位（総合支所単位）でそれぞれが検討することも必要だが、小さい単位で同じような事を検討や議論するのではなく、３町をどうしていくのかどう維持、発展していくのか等の議論も必要。  特に、気高と鹿野は、行政界が近接しており、生活圏は浜村となっている。３町の交流、３町外から来られる市民、県外者、観光客等から見た幅広な視点で考え議論すべき。気高町（浜村が中心）の将来、どんな町にしていくのか等、まちづくりのあり方を考えるべき。  ⇒　支所区域を基本に未来プランを策定中のため、今後、皆さんの意見を伺いながら関係機関と検討します。  ⑥若い世代や女性の考えが反映するような多様な議論が必要。今後の気高町を担う、気高町に残ってもらう小中、高校生のリーダー的な学生との意見交換会等が必要。また、今の地域振興会議の委員だけでなく、各セクションでの有識者や諸団体の関係者との意見交換会も必要。まちづくり協議会、各公民館との交流会も必要。いずれにしても、各方面からの多様な意見や意見交換する場づくりが必要。また、浜村活性化委員会、まちづくり協議会、各公民館、民間等との連携も必要。  ⇒　次世代の人材の育成支援のほか、若い世代や女性の視点をまちづくりへ反映させるよう働きかけを行います。  ⑦全体に絵に描いた餅とならないようにすることが必要。  予算や既存予算での対応が出来るような検討や見直しも必要。大きな鳥取市となりすべて同じ基準や考えとならないようにする必要がある。地域の特色を出すことが必要。  ⇒　未来プランの実現に向けて関係機関と検討を行います。 |